キイジョウロウホトトギスは日長処理により開花調節が可能

１．はじめに

キイジョウロウホトトギスは、紀南の中山間地域に自生するユリ科の山野植物であり、すさみ町と一部の地域では栽培もおこなわれています。短日植物であり自然条件では9月下旬から10月上旬に開花しますが（写真）、有利販売のために開花時期の調節技術が求められています。ここでは、日長処理試験の結果を紹介します。

２．試験方法

(1)長日処理による開花遅延効果

暖地園芸センター内で育苗した3年生苗を用い、2000年6月25日から56日間、85日間および126日間の電照（日長延長による16時間日長）処理区と無処理区を設け、開花時期を調査しました。試験期間中、葉焼けを防ぐためヨシズで遮光をおこないました。

(2)短日処理による開花促進効果

暖地園芸センター内で育苗した4年生苗を用い、8時間日長となるように遮光をおこなった短日処理区と無処理区を設け、開花時期を調査しました。短日処理区の遮光開始日は、7月1日、7月16日および8月1日の3水準としました。なお試験期間中は、試験(1)と同様に遮光をおこないました。

３．試験結果

(1) 長日処理期間別の開花時期は、開花まで電照をおこなった126日間処理区が10月30日で最も遅く、無電照区の10月19日に対し、11日の開花遅延効果が認められました（表１）。

(2) 短日処理期間別の開花時期は、処理した3区間でほとんど差が無く、無処理区に対し、20日程度の開花促進効果が認められました（表２）。

４．おわりに

以上の結果、キイジョウロウホトトギスでは、電照による長日処理によって開花遅延効果が認められ、その効果は開花時期まで電照することで最も高いことがわかりました。また、短日処理による開花促進効果も認められました。つまり、キイジョウロウホトトギスの開花時期は、日長処理により調節できることがわかりました。　（育種部　村上　豪完）

表１　長日処理期間が開花時期に及ぼす影響

長日処理時期（月．日～月．日）	処理期間（日間）	開花時期（月．日）	開花の遅延※（日）
6．25～ 8．20	56	10．23	4
6．25～ 9．19	85	10．23	4
6．25～10．30	126	10．30	11
無処理	—	10．19	—

注）試験場所：御坊市、暖地園芸センター内
長日処理：電照により16時間日長
調査年次：2000年　　※ 無処理との比較

表２　短日処理期間が開花時期に及ぼす影響

短日処理時期（月．日～月．日）	処理期間（日間）	開花時期（月．日）	開花の前進※（日）
7．1～10．2	93	10．2	21
7．16～10．3	78	10．3	20
8．1～10．3	63	10．3	20
無処理	—	10．23	—

注）試験場所：御坊市、暖地園芸センター内
短日処理：8時間日長に遮光
調査年次：2004年　　※ 無処理との比較

写真　キイジョウロウホトトギスの開花状況